Koby 詩集

昔から書くのが好きでした。これから少しづつ、その楽しみも思い出しながら。

どなたか、曲でもつけて頂ければ最高ですが・・

月に最低一つを目指します。

Happy

今、生きていることが、
やりたいことができることが、
美味しいものが食べられることが、
笑っていられることが、
他の誰かを心配できることが、
何かで苦しまないことが、
そして
人を想うことができることが、

Happy!
おそらく、今、とっても
とっても、幸せなんですよ
(June, 2020)

ずっと家で

2 月 26 日の東京行きを最後に
3 月、4 月そして 5 月
自粛の毎日
こんな「日常」があるのだろうか
世界も、日本も、家庭も
政治も、経済も、社会も
変わる
変わらざるを得ない

歴史に残る巨大な変化の中で
まるで「私には関係ないよ」といった顔で
「日常」を生きている
誰にも分からない明日に向かって
(May, 2020)

新型コロナ

近代科学への挑戦
自然や、歴史からの挑戦
何でもできると驕る人類への挑戦
たった 1 ヵ月で世界を制覇しようとしている

人類の生き方を
人類の幸福を考える

どう生きるのが
どう死ぬのが
本来のあるべき姿なのか
それを問われている
(Apr., 2020)

雪を見たくて

もしかしたら
夢の中の
雪降る五重塔が見えるかと

久しぶりの室生寺

とっても静か
残念ながら少し暖かくて
奥の院迄上ると汗

ここに来ると
歴史が 10 年、20 年単位で遡る
もう・・・50 年
何があったか
(Feb., 2020)

田舎のお葬式

田舎のおばさんが亡くなった
今度の帰省も、またお葬式
多くのおじさん、おばさんがいたけれど
最後の残っていたナガセのおばさん
でも、今回は 94 歳の老衰
こんな葬式は何故か明るい
天命を全うした人生
涙もあるけれど、微笑みもある
次兄と共に帰省して
久しぶりに語る
これも逝く人からのプレゼントか
あちらも騒がしくなっているだろう
だんだん呼び声も聞こえる
(Jan., 2020)

小学校の同窓会

60 年振りの再会、こんな日が来るなんて
誰が誰だか分からない
でも、分かってくる
いいんです、そんなに話さなくても
子供の自分が
ずっと、話し続けているから
(Nov., 2019)

三十三か所結願

観音様巡りを始めて
もう三年
琵琶湖の竹生島で結願

何という時の速さか
好天の宝厳寺
これから紅葉

湖面に青空が映える
ありがとう
(Sep., 2019)

恩師を送って

とうとうその日がきた
飛んでかえってきたけれど
最後の言葉は聞けなかった
高校を卒業してから
事有る毎に相談し、一緒に飲んだ
一晩、送辞を考えた

碁盤と碁石のセットが残った
電話で話すごとに「打っているか？」
ネット碁ばかりで機会がないけれど
奥様が送って下さった形見の着物を着て
ゆっくり
打ちたい

(Sep., 2019)

義姉さん（ネエサン）が逝った

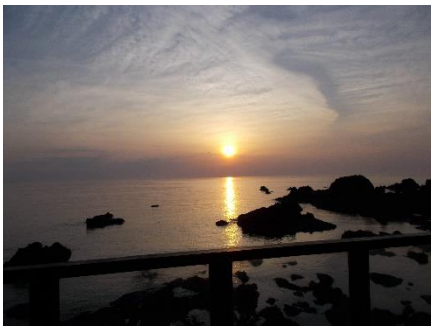
長兄（あに）は父親代わり
人生の先導者
尊敬し、誇りに思い、ずっと従っていた
でも、あなたにとって、決して良い夫では無かったかもしれない
いつも、そう思っていた
そして、彼は先に逝った

その後のあなたは
それでも優しかった
いつも長兄の話をした
いつも誉めてくれて、自慢してくれた
多くの「あの日」がよぎる

ありがとう
お世話になりました
ゆっくり二人ではなしているかな

(July, 2019)

奥能登

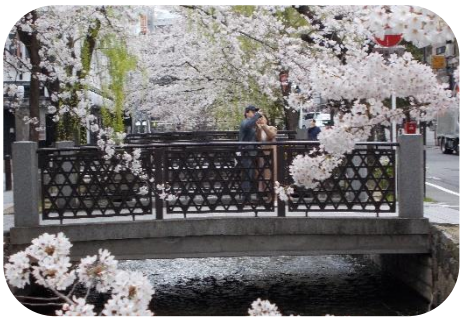


春の能登は何もかも静か
話題の「お・も・て・な・し」を学びに
のんびり海を観て

フジの中をドライブして
奥能登の絶壁の宿
時が止まる

(May, 2019)

春の京都



孫娘のピアノ発表会
こうして年々成長していく
その分だけは我々夫婦は年老いていく
自然の流れの一つだけれど

帰りに京都に立ち寄って今日の華を楽しむ
歴史の流れを味わいつつ
自分の流れを思っている
(April, 2019)

春はレンゲの畑　（故郷の四季　春）

季節ごとに親しんだ自然が違う
レンゲの花の中に寝転んで
ピンクの花びらの向こうの
青い空と白い雲と話した
まだ寒かったはずだけれど
あたたかい、あの日
(Mar., 2019)

白内障の手術

片目に 3 日、結局 1 週間
とうとうやってもらった白内障の手術
入院までしてやってもらって
確かに明るくはなったけれど
「世界が変わるよ」でもない
ゴルフ場でのボールは良く見える
それだけでも
(Jan., 2019)

検査入院

久しぶりの入院
検査とは言うもののそれでもカテーテルを入れる
不整脈の原因を探る

実際は 10 年前のステントの状況チェック

窓から見る夜景は静かで美しい
人々が日常を過ごしている灯り

いつものことだろうけれど
病室から見る灯りはちょっと違う

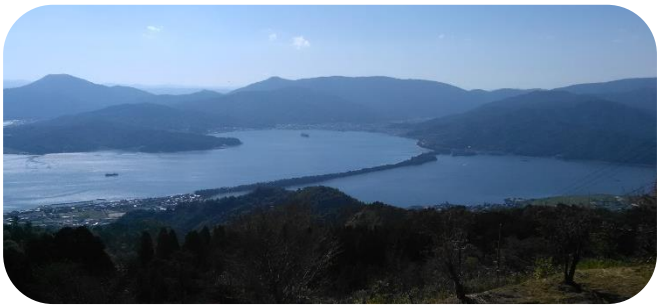
灯りの中に生を見る

病であって欲しくない、と願う
(Dec.,2018)

本栖湖から富士

今年も遼君の御殿場
その後、富士五湖の秋
本栖湖を訪ねた
丁度、富士山に笠雲が輪になった
明日は雨か
紅葉の季節も終わる
(Nov.,2018)

天橋立を臨んで



西国三十三か所巡りも残り少なくなって
訪れていない観音様も減ってきた

四国の帰りに北陸に寄った
大昔に来た宮津湾
何も覚えていないけれど
天橋立は覚えている

あれは、大学時代か
女子高校生を二人連れて
そんな時もあった
今日は成相寺から臨む
(Oct., 2018)

47 年入社同期会

名古屋に入社した仲間
みんなリタイアして
でも
久しぶりに集った

いっぱいいっぱい話したいけれど
一緒に温泉に入って
美味い酒を飲んで
それだけで十分

これから人生の終局だけれど
上手くね
と。
(Sep., 2018)

ネットで兄弟

次兄が癌を宣告された時
すぐに飛んで行って
残された時間を交流しようと
ネットでの囲碁対局を提案した

それからもう 6 年
多い時は週一回
今では月二回
楽しみに囲碁を打つ

交流の絆に圧倒されたか
癌は収まって
彼は 80 歳になる

2 年前には 3 兄が突然先に逝った
彼とネット将棋でもしておけば良かった
それが悔やまれる
(Apr., 2018)

雨の安政柑

とうとう当たった「雨の収穫祭」
因島の安政柑　8 年目に雨

でも農園を訪ね
濡れながらいくつか採り入れ
やはり楽しかった

結局、すべてを地元の方達に託して
テントの下でのバーベキュー

こんな絆があるなんて
他愛ない会話の中に
嬉しい喜び

今年も有難う
(Mar., 2018)

西国一番

ついでばかりのお寺巡り
西国一番の那智の滝

穏やかな春の旅
今回もまた四国からの帰り路

熊野参道も鬱蒼として
さすが、一番

滝からの水しぶき
落下の響き

やはり祈りは自然の中

やっと訪ねた青岸渡寺
(Feb., 2018)

新年の嵐の後

元旦の夕方から 3 が日の間
たった丸二日
我々夫婦の一年の凝縮

子供たちの年齢を考え
孫たちの将来を祈る

いつも静かな我が家に笑い声が弾ける

家族って何だろう
なぜこんなに穏やかな気持ちを呉れるのだろう

来年の正月はどんな正月
再来年の正月も平和に来る
尋ねても答えはない

それが今を生きるということ
二人残った
嵐のあとの静けさ
(Jan., 2018)

いつもの年越しを

夫婦二人だけになった年末に
息子が帰ってきた
「正月の集まりの準備のために」

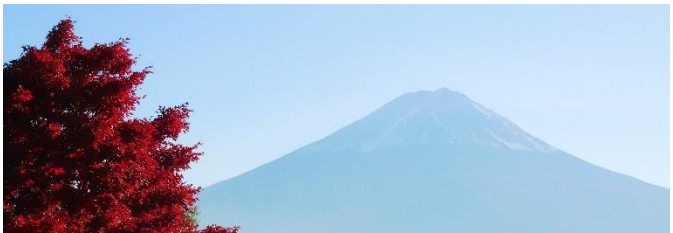
それだけ
正月の集まりが彼らにとって大事なのだと
思い知る

リサイクルゴミ、燃えるゴミ、燃えないゴミ・・
何十枚ものごみ袋を一杯にして

でも、全く同じ
その後も連日の掃除
もうすぐ孫たちが来る
(Dec., 2017)

今年も遼君を追って

これで何年目か
秋の本栖湖と御殿場のゴルフ場
今年の遼君を追って



でも、前日に予選落ち
あの頃の遼君はどこに行った
弱い遼君も
やはり呼び寄せる

もう一度御殿場で踊る彼をみたい
河口湖の紅葉はいつものように
黄と紅の絨毯
まるで時は流れていないかの様に
(Nov.,2017)

葬式よりも

名古屋時代の同僚が名古屋に集まった
その頃のリーダーを慕って
多くのメンバーが

前回の時に彼が一言
「死んだ時に集まってもらうより
生きている間に会えれば嬉しい」

そうだなと思う
そうありたいと思う

もうこれで３度目か
「生前葬」というのは違うのかも知れないけれど
この方が良いな
和やかで嬉しい集まり
(Oct.,2017)

まだ頑張っている

もう重い責任も感じず
ただ、ボケ防止だと言い聞かせながら
また今年も受けてしまったアルバイト

朝、起きてから
夜、床に就くまで
いつも気になっている

今の自分にとってギリギリの挑戦
もし大きな責任があるのなら到底無理

でも、心の底では
チョット嬉しい
チョット誇れる
だから頑張る

人間のやる気って
こんなに複雑
流石に来年は無理だろうな

なんて思いながらパソコンに向かう
(Sep., 2017)

ふるさと中学校

今年は中学校の同窓会
古稀の祝い

もう 54 年も前
3 校統合の新校舎で 3 年生の一年間のみ

だから全く覚えていない顔も多い
でも同じ中学校の卒業生というだけで
テーブルを囲むと話題は弾む

「同窓」の親密さ
これは何だろう
穏やかな心を有難う
(Aug., 2017)

送別会で

いつの間にかもう 4 年
この仕事も楽しかった

鎌倉の寺巡り
大仏、長谷寺を回って
昼食にビール
そこで掛かってきた一本の電話
それがきっかけで

大手の企業のコンサルタント
毎月訪問若い人たちの研究内容を聞いた

それも今回で終わった
確かに 4 年は長かった
仕方ないけれど
チョット寂しい

もう新しさがなくなったか
今夜の送別会には若者が一杯
これは嬉しかった
皆さん
頑張ってね

そう祈った
(July,　2017)

カルメン

ちょっと遠い親戚だけれど
若い女性のオペラ歌手
来てくださいと連絡があると
それだけで嬉しい

今回はカルメン
残念ながら、カルメンやミカエラではないけれど
その次のメルセデス

出番はやや少ないけれど
さすがプロ
声が冴えわたる

カルメンって意外に奔放でワルだったんだな
と、改めて知って
なぜか嬉しかった

こんな機会をくれる親戚がいるなんて
また次回も呼んでね
そして
いつかはカルメンを演じてね
そう、応援した

(June, 2017)

ゴルフばっかり

ゴルフ、ゴルフ、ゴルフ
練習はしない
スコアも諦めている
でも、終わるとやはりちょっと悔しい

そんなゴルフを続けている
今の目標はただ一つ

日焼けをしようが、雨が降ろうが、風が強かろうが
状況を楽しみながら
ちゃんとラウンドできること

１８ホールを終わった時の満足感は
やはり、回ってこそ

ベストスコアなら申し分ないけれど

でも、楽しい

(May, 2017)

ミステリーツアー

周りは皆同年配
65 歳以上の熟年カップル

ミステリーツアーというけれど
興奮の度合いは大したことはない

これからの人生をどう生きようか
蔭でそんな囁きが聞こえていた

初めての経験
九州のミステリー
(Apr., 2107)

ぜひ、またもう一度

大学時代の旧友３人と会った
しかもみんな夫婦で

一人が大阪から上京するとのことで
横浜、富山、千葉から
何年ぶりのことか

４人全員は卒業以来
何と４７年ぶりの再会

当方以外は４年生で卒業したが
皆素晴らしい人生を送っている

一人は化学工学科を卒業して「マグロ屋」
遂には市会議員にもなって

後の三人はサラリーマン人生
一人は今や財界の大物

でもこうして集まると
下宿に集まって一夜漬けした日
マグロ屋でアルバイトをして美味しい丼を頂いた日

想い出は尽きることがない

今回は皆さん夫婦参加
これも珍しい
夫々のカップルの歴史
今の家族の状況

会話はとどまることが無かった

「旧友っていいな」
それがたった一言の感想

次はいつ集まれるか
それすら分からないけれど・・・

何かシアワセ
(March, 2017)

アリガトウ

メールの最後にいつもひとこと
有難う

たったその一言がほっとさせる

手紙の最後にいつも一行
有難う

それだけで良かったと思う

電話で話してさよならの代わりに
有難う

良い友人をもったなと思う

有難うはマジック
有難うは優しさ
有難うは幸せ

最後はいつも
アリガトウ
(Feb., 2017)

アメリカ人の友人を迎えて

初めて会ったのはもう約 30 年も前
結婚すぐの君たち夫婦を日本に迎えた
わずか半年の滞在だったが多くの想い出が残った

共に一所懸命に働いた
ある時は一緒にある時は全く違った分野で

でも、いつもお互いを気にしていた
仕事以外の場でもそれぞれの家族も

いつの間にか僕はリタイアの身
君は中国のエグゼクティブ
輝いている

こうして一晩立寄ってくれて
久し振りのワイングラスを交わす
内房の夕べ

これからもよろしくね

お互い元気でね
何年かぶりの英語で疲れたけれど

何だろう、この喜び
僕の人生の中で、最も広い視野を与えてくれた交流
ありがとう　長い間
ありがとう　これからも
(Jan., 2017)

自然と人間

四国からの帰り
ほんの数時間の空き時間を使って
坂出の浜に

瀬戸大橋を下から臨む
東山魁夷美術館で
自然を愛した天才の作品を堪能して
その後で

自然と技術と
その対比を想いながら

眩しい晩秋の空の下
静かな静かな想い
(Dec., 2016)

秋の富士に

11 月になると山梨に行く
メインの目的は成長する「遼君」の応援
と同時に、秋の山梨、富士山を楽しむ

今年は千円札の富士山
本栖湖に紅葉と富士山が写る

こんな秋の旅
もう何年か

来年はどうかな、と思いながら
今年も運転できた
(Nov.、2016)

出雲大社

お寺巡りで山陰に回った
大山寺、清水寺、一畑薬師
中海や宍道湖の周りを走った

飛行機までの残った時間を使って
立ち寄った
出雲大社
50 年ぶりのお参り

あれから何があったか
あれからどう変わったか
どこまで大人になり
どこまで子供の心を残して

二礼二拍手一礼の中に込められた長い歴史

まるであの日の様に
でも
まるで違った人間の様に
(Oct., 2016)

新しい技術に

ふとしたきっかけから
お付き合いの研究所

もう何もできないのに
もうみんな忘れているのに
時々声を掛けてくれて
技術屋としての自分を評価してくれる

もう古いから
そう言いながら
ここから声がかかると妙に力が入る

おそらく 60 歳を越すと
皆同じ
おそらくこの時代は
皆同じ

何もかも変わった時代に
でも　あがくと
助けてくれる手は多い

パソコンに向かう姿は
若い頃図書室に籠った姿か
あの若さがあれば

つい、そう思ってしまう
(Sep., 2016)

古稀に集って

還暦同窓会からあっという間に１０年
今日は古稀の同窓会
昔の仲間が歴史を語り合う

人によっては何と５０年ぶりの再会
時計は瞬間に逆回転
あの時と同じ語り口で同じように

故郷と同窓会、心底に響く言葉
仲間たち一人一人が
頑張って、泣いて、笑って

多くの友人達が逝っていた
どんな人生だったのか
知りたいような、知らなくても良いような

何故って、次に会う時は多くの友人達が
笑って迎えてくれるだろう
後は、一人一人に残された現世での生き方
それを語る日まで

(Aug., 2016)

OB 会

北欧を旅していたら
突然入ってきたメール
「貴方が OB 会会長に選ばれました。よろしく。」だって
そんな話、聞いてないよって、腹が立って
帰ったらすぐ退会だ

友人達と話したら
幹事も皆そうだって
選ばれたのだから、皆の為にやりましょう、って
そう言われると、そうだなと納得して
早速、引継ぎを開始

現役を離れて、徐々に年老いて行く OB 達
自分の現役時代を、誇りにしている OB 達
お互いの無事を確認し、笑顔で話す OB 達

こんなグループがあることを
こんな人達が期待していることを
これは
誇りにしなくちゃ

そう思って

(July, 2016)

男の逝き方

まるで死ぬことがわかっていたかのように
いつ逝っても良いと思っていたかのように
兄は家族や友人たちに別れの言葉を残していた
そして　実は　突然に逝った

いつ書いたかも分からない遺書
まるでそれを楽しんでいたかのように
話しかけている

男らしさとは何か分からないけれど
そう思わせる死に方

医者嫌いでいくら進めても行かなかった
薬嫌いでいくら勧めても飲まなかった
兎に角、自然に生活しようと努めた

そこまで頑張らなくても良かったのに
血圧を下げる位飲めばよかったのに
そう思うけれど

でもこうして送った後思うのは
凄い兄貴だったなと言うこと
あっさりと逝って、家族には全く迷惑を掛けなかった

あの日の家族の涙は思うけれど
でも、あのように、と憧れる

いずれ追いつくから、待っててよ
そう、語りかけた

(June, 2016)

人生のユニフォーム

５月になると庭に出る
現役の頃の作業服を持ち出し袖を通す
それだけで何故か力を感じる
剪定ばさみを手に枝を落とす
懐かしさがこみ上げてくる

出社と共に作業服に着替えた
それが当たり前と思いユニフォームに誇りさえ感じて
現場で走り回るのが楽しくて
本当にもう、そんな空気は無いのだろうか
そうは信じたくない

失敗しても成功しても
自分でやった満足感・達成感はあった
幸せな技術屋生活だった
その生活が終わって懐かしくなった頃も
もう一度、もう一度と思っていた

グローバル企業の管理者は
ユニフォームが好きでは無かった
それがとっても厭だった

こうして自分で庭木を整えて
目に見える成果を出して、ニッコリ
これも人生のユニフォーム

(May, 2016)

「ことでん」に乗って

高松の瓦町から「ことでん」に乗った
こんぴらさんへの一時間の旅
讃岐平野をちょっと意外な速さで突っ走る

思い出すのは鎌倉の「江ノ電」
これはもっと遅かった
海辺を山辺をゆっくりと

ことでんの走る町は
時には街、時には山
讃岐平野の帽子をかぶせた様な山の間を走る
ある山はチロルハット、ある山は麦わら帽子、ある山はとんがり帽子
色んな形の山が「さぬき」を醸し出す

江ノ電は鎌倉の壁と、太平洋
のんびりコトコト、でもなぜかオシャレ
小町、長谷寺、江の島から藤沢
湘南ボーイの街だった

こんぴらさんに着いた
多くの人々が石段に向かう
速い人も遅い人も皆汗をかきながら
登る

そういえば江の島神社も石段だったか

えのでんを懐かしみながら、ことでんに乗った
それだけのことが
30 年の歴史

(April, 2016)

初春の東京散歩

日本橋で健康診断
夕方の約束までの数時間
久しぶりに八重洲から丸の内
ゆっくり歩く

日本橋の丸善で立ち読みをして

何故かまた丸の内の丸善へ
４階のレストランで
久しぶりの「早矢仕ライス」

ゆっくり味わって
コーヒーを飲みながら
目の前の東京駅ホームを眺める

東北新幹線が出発した
緑の「はやぶさ」が赤い秋田新幹線「こまち」を引っ張る
孫が興奮する「ガッチャン」連結車
彼がいたらきっと喜んだだろうな
喜ぶ顔を想像しながら
ただただ、ゆっくり
（March, 2016）

おめでとう　成人

君の両親はね
なかなか子供が授からなくて
とっても悩んでいた
今度こそ、今度こそと言いながら
うなだれていた

海外赴任が決まった頃
喜びの知らせが聞こえてきた
きっと遊びに来てくれると思っていたけれど
それよりも大きな楽しみだった

そして、君は生まれた

我が家の家族にとっても家族の新たな一員
子供たちは赤ん坊をダッコし、ハイハイを、歩きを
おしゃべりを、ピアノを、バイオリンを
次々と成長していく「歳の離れた従妹」を楽しんだ

そして、もう成人

それはあの頃から、みんな、20 年を経たということ
まるで、スターの様な記念写真を観て驚いている

おめでとう、成人
君に、そして両親に
これからも、家族の一員でいようね
初めて一緒にドライブして
「大人」の君を見つめた
(Feb.,2016)

一粒のチョコレート

オンザロックを手に
口に入れるこのチョコレート
懐かしい香りがとろける

緑のパッケージ
今は「冬季限定」のラベル
そう言えば溶けやすかった

コニャック入りだって
これで酔う人もいた
からかい笑った思い出も

どんなものにもどんな味にも
一つ手に取ると想い出の歴史
そう
それが生きてきた証
一粒のチョコレートが酔わせる
(Jan., 2016)

想い出のクリスマス

クリスマスが近づくと必ず取り出す一枚の CD
一年に一度だけだけれど
必ず

Sammy Kershaw のクリスマスソング
手にしただけで思い出すのは
あのミシガンの雪景色

大きな家で、一人きりで
でも暖炉に火を入れた
ボリューム一杯で聞いたのは
“All I want for Christmas is you”

何度も何度も繰り返して
歌えるようになって
そして、また一年

帰国してからも
何故かこの日にこの歌

眼を閉じれば雪に覆われた庭の樹木
あんな日が本当にあったなんて
想い出のクリスマス

All I want for Christmas is you
(Dec., 2015)

人生はタラの水族館

大きなタラもいっぱい

あの一言がなかったら
もう少し勇気があったら
あの時会わなかったら
あと２点取れてたら、あと２点取れなかったら
あそこで決めなかったら、あそこで決めてたら
あの時 Yes と言わなかったら
もう少し努力していたら

大きなタラが一杯泳いでいる

小さなタラは毎日のように

ちょっと早く起きていたら
ちょっと早く動いていたら
前もって伝えていたら
昨日ゴメンと言っていたら

大きなタラと小さなタラに振り回されて
でも
時間だけは着実に過ぎて行く
さっきまでの人生にもうタラはいない

振り返ってみれば
本当に
人生はタラの水族館

もう一度生まれ変わったら・・・
そのタラはいない
(Nov., 2015)

かんのんさま

かんのんさまには、はながにあう
さざんかも、つばきも、
やまざくらも、もくれんも、
ぼたんも、あじさいも、
ふじも、しゃくなげも、
はすも、ひがんばなも

はせかんのんは
やまのなか

はなは、さいてはかれ、さいてはかれ
いまの、わたしは、どのはなの、いつ

かんのんさまの、あしさきをさすりながら
いのった
かれるひは、ちかいけれど
ぽとんと、うつくしく
(Oct.,2015)

恐るべし中国

観光に来た中国
政治の影響か日本人に一度も会わなかった中国

現役時代
良く通った中国とは
全く別の世界

でも今の表面の中国を見ると
日本人はもっと謙虚であらねば、と思う

敗戦国なのに
余りに優遇された国
もし、自分が中国人だったら、韓国人だったら
そう思うと
何か間違っているかも、と思う

このまま行くと
孫や、その次の世代に
間違いなく
大きなシッペガエシが来る
そう思った

大きな、大きな中国
(Sep.,2015)

夢だけれど

バス停に立っていました
バスの前を走っていた車が
急にスピードを上げて
真っ直ぐ突っ込んで来ました
その時目が覚めました

高速道路を走っていました
何故か追い越し車線の向こうから
走ってくる車が見えました
そして正面に
その時目が覚めました

飛行機で四国に向かっていました
急に大きな揺れが来て
機内アナウンスがあったとたん
大きな空気の流れが
その時目が覚めました

夢でしかあり得ないことが
でも

実際に起こっています
やはり
生きているのではなく
生かされているのです
そうとしか思えません
(Aug., 2015)

自転車が似合う街

久し振りの京都
降ったり止んだりの空

でも何だか歩が進む
若者の声
構内からは呼びかける音も

正門をくぐると
まるで半世紀前の自分がいる
圧倒されるような若者の熱気

自転車が走る
若者によく似合う

みんな笑顔に見える
学生の顔
多くの外国人も

スターバックス
テーブルでカフェラテ
ノートを広げる人達も

生協で買った 650 円の折りたたみ傘
帰宅したらもう骨が折れていた
青春を振り返った一日
(July, 2015)

龍馬の故郷で

初めての土佐
勤王の志士を生んだ土佐

他の地方都市と同じように
静かな街

駅前の居酒屋で一杯
皿一杯の鰹のタタキ
大きな川エビのフライ
そして
辛口の日本酒

先代のおかみさんが
相手をしてくれる
やはり
土佐の女性は強そう
でも人懐っこく
話だしたら止まらない

初めての土佐
やさしいおかみさんの土佐
(June, 2015)

歌の力で

テレビでもラジオでもユーチューブでも
今はこちらが選ばなくても
色んな音楽が聞こえてくる

エッこんな歌があったのって
驚くこともしばしば
ある時は曲に
ある時は歌詞に
惹かれて

今日の歌もビックリ
もう何年も前の歌らしいけれど
聞いたのは初めて

耳にしただけで
時計が逆転
昔を思い
今を思う
懐かしさに

誰を思い出すのか
どこを思い出すのか
いつを思い出すのか
分からないけれど

また、再生を押して
それを探す
これが、歳を経たということか
音楽の力
(May, 2015)

同じ幸せ

散りつつある八重桜の下に
濃い紅のツツジが今年も咲き始めた

同じ場所の同じ木に

でも
一つ一つのはなびらは毎年違った枝に

つい先日まで冬物ジャージーを着て
手袋までしてウオーキングしていた

いつの間にか半袖
でも
同じ道、同じオールデイズミュージック

昨日と一昨日と先月と昨年と
同じ道を同じように歩き
同じ花々同じ音楽を楽しんでいるけれど
でも
同じでは無いものがある
それは今日終わるかも知れない
私の人生
同じで良かった
(April, 2015)

悩んでいる君から

ふとしたことから耳にした
君の悩み
まさかと思ったけれど
本当だった

あんなに明るくて朗らかだった君が
悩みから脱せられない

悩みは青春と思っていたけれど
30 歳でも 40 歳でも 50 歳でも 60 歳でも
多分
70 歳でも 80 歳でも、果ては 100 歳を越しても
いつでも人間は悩まねばならない

すぐにでも君の所に飛んで行って
色んな話をして
多分
誰でも悩んでいることを話したいけれど

今日、君から電話をもらった
いつもと同じ声だった
良かったね、双方共元気で
それだけで、終わり、それだけで十分

結局、解決は君自身にしかできないのだから
ホッとした夜
(March, 2015)

Nice to meet you again

もう２５年前
米国人の若者を迎えた
何と新婚の奥さんと一緒に来るという

そして２０年前
今度はこちらが米国に赴任
一緒に仕事をし、一緒に生活を楽しんだ

お互いの家族を知り
お互いの生活を知らせ合った
何と長い付き合いか

中国に赴任している彼と家族が
成田で一泊してくれた
同じホテルに泊まって
語り合った
彼らの３男と我が家の３男家族と
偶然にもそんな彼らも一緒に

こんな関係があるなんて
それだけで
嬉しい

この３０年の縮図の一つ
大切な大切な想い出
(Feb.,2015)

雪の想い出の寺

奥山から流れ来るせせらぎに
かかる太鼓橋
雪に足がとられそうで

仁王門も雪の中
大きく深呼吸をして
左に曲がれば鎧坂
春にはシャクナゲが待つけれど
今はひっそりと椿が

登りきるとお堂が待つ
中にはいつもの仏たちが
体は寒さで震えるけれど
暖かな顔で迎えてくれる

さて、五重塔
雪の中は一段と美しい
つまんで掌の上にのせて
拝みたいような
静かな森の中で

足元が滑るのに

気を付けながら奥ノ院
三途の川を越えて
石段を登って
縁側に立てば声が聞こえる

そんな新年もあった
雪の美しい寺
また、会いたい
(Jan., 2015)

ジジババのクリスマス

例年の様にツリーを組立て
例年の様にゴルフオーナメントを飾り
例年の様にランプをつけて

例年の様にワインを開けて
例年の様に静かな乾杯

これが歳をとるということか
老いていくということか

でも例年の様にできること
昨日と同じ今日があること

それは素晴らしいこと

今日も例年の様に
(Dec., 2014)

思う　誕生日

この日になると　決まって
子供たちが、そうして孫たちが
訪ねてくれる
電話をくれる
「ハッピーバースデー、爺ちゃん」

来てくれるのは、声を聞かせてくれるのは
どんな理由であれ嬉しいけれど
誕生日は、もうハッピーではない

祖父母、両親、義両親
そして、長兄、多くの友人達
みんな逝ってしまって
自分の順番が近づいてくる

そのことを心に刻むための「バースデー」
６７歳になった
(Nov., 2014)

仲秋の名月（故郷の四季）

誰に言われる訳でなく
今夜はお月見の夜だよと言われると
いつもの小川のそばのススキを取ってきた

東に向いた縁側に
母がススキを飾り
ススキとススキの間に
だんごを供え
名月を祝った

すぐ目の前の山際から
満月が顔を出すと、周辺が明るくなって
名月とススキがなぜ組み合わせになるのか
感覚として判った

そんな子供時代が
何年あったか
やらなくなって、今
妙に懐かしい

あの東の山
昇ってくる満月
これまた、故郷の大切な思い出

(Sep., 2014)

雨も

雨は、しとしとが良い
雨は、ゆっくり緑を育ててほしい
雨は、庭の植木の葉を輝かせてほしい

それが、最近の雨は

豪という字が付く
猛という字が付く
「これまで経験したことがない」と皆が言う

地球は、自然は、そして科学も
人間の横暴を許さなくなったか

もう一度、人はいかに生くべきか
何が幸せか
考え直すべき時なのかも知れない

８月の豪雨災害

(Aug.,2014)

小さい地球

2000 年の歴史の中で

わずか 150 年前に
日本でも
日本人同士で戦い殺しあった

わずか 70 年前に
日本も
大きな戦争をやって多くが死んだ

今でもあちこちの国で
戦争が終わらない

決して他人の話ではない
決して関係ないことではない

「平和の国」日本、なんて
わずかこの 50 年
日本だけ平和で良いのか
日本だけ平和なんてあるのか

忘れてはならない、
地球はどんどん小さくなっていることを
(July, 2014)

因数分解は楽しい

因数分解ってできますか
中学でも、高校でもやりました
最初は文字式の掛け算で
いろんな公式を覚えて

次は逆に共通項でくくって
因数でくくって
かっことかっとの掛け算に

因数分解ができると方程式がとける
色んな問題を解きました

さて人生を振り返って
イコールゼロの方程式にして
答えを出すための因数分解
どんな共通因子があるでしょう

生きた時代を家族で、友人で、仕事で、お金で、健康で、住居で・・
共通項でくくってみましょう
かけ合わせたらイコールゼロの方程式

沢山のかっこの中の一つがゼロなら掛け算はゼロ
解けましたか
あなたの、人生の方程式
(June, 2014)

八十八ヶ所巡り

京の東寺で会う空海は
力に溢れ
悟りきったような輝きをもつ
もう無限の世界に向かうしかないような

四国巡礼で会う空海は
伝説に溢れ
一つ一つの寺の空海がある
何かに向かって歩き続ける白衣の僧と

こうして寺を巡って今
後悔しつつも
歴史の点を生きている
己がいることを話しかけながら

第二の人生を歩いている
それは、明日ではなく、今日か
(May, 2014)

I'M YOUR GRANDPA

桜輝く春
新しい家族を得た

早産の危険と闘って
無事生を得た命

五体満足で、目も耳も鼻も口も
そして可愛い爪も

人間って、命って
やっぱり不思議
何回出会ってもそう思う

こんにちは
初めまして
小さな新しい命に

ご挨拶
I'm your grandpa
(Apr., 2014)

今夕もウオーキング

春を待つ池の周りを今年も歩く
桜はまだ硬いがでも、ちょっと色付いた芽を出している
来週はきっと芽吹くかな、と

気温も徐々に上がっている
耳あてもとうとう外した
いよいよ汗拭きの準備か

今夜は満月
夕方は冷えるようで、輪郭がくっきり
また会えましたね、と語りかける

もう誰のためでもない
自分自身が
健康で生きている、生かせて貰っている
その感謝を示すために
今夕も、歩く、一万歩
(Mar., 2014)

スコップを出して

何年ぶりかの大雪で
久しぶりの雪かき
昔を思い　心騒ぐ

ふるさとの雪かきは
白いキャンバス
ラッセルの汽笛　今も響く

都会での雪かきは
珍しさの興奮
子供たちとの　思い出

ミシガンの雪かきは
マイナス２０度
キリキリ痛む　鋭さ

雪かき一つでも
多くの思い出
次はどこでと　想う
(Feb.,2014)

アクロポリスの丘に立って

ギリシャは歴史の国

日本や他の国々の歴史と比べても
もう全く違った世界
神話の世界と言えようか

中でもアクロポリスの丘に立つと
この建物は何だ
紀元前の世界でこんな物があって
力が支配する世界があった

パルテノン神殿が出来た時
日本では未だ縄文の時代か
地球の裏側にこんな世界があろうとは

ソクラテスもプラトンもアリストテレスも
この神殿で呟いていたか

まるで絵巻物をほどいているような
ギリシャ
そう、歴史の国
（Dec.,2013）

The Garden

ルーミーの詩では
どんな生き方をしようと
最後には素敵な Garden があるという

多分、その庭は十字架に囲まれた教会の庭か
小さな五重塔を見下ろす緑の高台か
何れにしても、美しい花々に囲まれた Garden

どんな気持ちでそこへ辿りつくか
どうすればそこに行けるか
そんなことを考えるようになった
六十六歳
明日はまだあるか
（Dec., 2013）

サヨウナラは難しい

サヨウナラは言えない
何故って、ホントの別れだから
サヨウナラは言えない
何故って、過去しか残らないから
サヨウナラは言えない
明日の約束が何も出来ないから

でも、それは全て、自分の明日があることを
前提にした言葉

自分に今日しか見えなくなった時、
初めて、明日に、サヨウナラ

そう、これからは
見えない明日をどう生きるか
毎日、サヨウナラを言いながら
(Nov., 2013)

まるであの日の様に

朝、目を覚まして考える
まるであの日の様に

ふと手を休めて考える
まるであの日の様に

眠れないまま考える
まるであの日の様に

色んなあの日の思い出の中で
でも、明日をまた生きる
まるであの日の様に
(Oct., 2013)

彼岸花

秋の花、曼珠沙華
今は、美しい、と思うけれど
子供の頃は、持って帰ると叱られた
毒をもった花
火事を呼ぶ花

色々言われるけれど
あの紅色と形は
時には宗教的であり
時には妖艶でもある

今は正に秋の幸せを感じる花
現世と来世をつないでくれる花
今を生きねば、と思わせてくれる花
９月も終わった
(Oct.,2013)

その名はメスの一太郎

いつもの散歩道
多くの犬の散歩とすれちがう

思い出すのは８年前に逝った
メスの一太郎

ペット嫌いだったのが
玄関脇に捨てられた犬を
ふとしたきっかけで飼うことになって

冬のミシガンの一人暮らし
慰めてくれたのはイチ
寒過ぎて結局部屋飼いとなって
いつも暖炉の前で話していた

帰国して忙しくなって
一緒の散歩もしてやれず・・
ガリガリになったけれど、
良い顔をして逝った

それが怖くて、もう犬は飼えない
一生で一度のペットだった

散歩で会う犬たちはどんな人生（犬生）なのか
そんなことを考える

（Sep., 2013）

今、思うあの我が家

静かにじっと思うのは
あの裏の田んぼ、稲の四季
山から流れる清水、小川べりの花々
子供時代を過ごした自然の中の我が家

静かにじっと思うのは
あの通学電車、大阪の四季
万博の熱狂、浅間山荘のテレビ
青春時代を過ごした岸和田の我が家

静かにじっと思うのは
あの通勤電車、工業地帯の暗い空
ニクソンショックで揺れたバブル
家族を持った高蔵寺の我が家

静かにじっと思うのは
江の島の浜辺、湘南の四季
芝生の中の自由な研究所
でも慌ただしかった鎌倉の我が家

静かにじっと思うのは
ミシガンの大きな家一人の毎日
英語に悩んだ異国の日々
本当にいたんだ、アメリカでの我が家

そして今

終の住み家か、本当の我が家
６５年を振り返る毎日
ようやく振り向く時間もできた
「ゆっくり」を目指す、千葉の我が家
（Aug.,2013）

団塊へのエール

だめですよ
蔭に隠れてちゃ
だってあんなに頑張ったのに
なぜ、この期に及んで小さくなるのですか

だめですよ
言わなくっちゃ
自分の意見があるのだから
なぜ、黙ってばかりいるのですか

だめですよ
動かなくっちゃ
これまであんなに動いてきたのに
なぜ、じっとしているのですか

だって、我々は
だって、将来のために

頑張った筈なんだけれど
(July, 2013)

花曼荼羅の中で

時は過ぎて行く
容赦なく
逆らうこともあがくことも
許されない
でも、蓮の花が見える

時は過ぎて行く
何と言おうと
哀しもうと悟ろうと
勝手だと
でも、曼珠沙華が見える

時は過ぎて行く
だからこそ
もう一度燃えてみたい
自分の世界で

（姫路・亀山本徳寺花曼荼羅）

そして、鷺草を見つめた

だから
今日も一所懸命
だから精一杯生きたい
小さなことでも自分の意思で
ニッコリ笑えるように

花曼荼羅の中にいる
自分を思い描いて
(June, 2013)

たった一言

いつもの散歩道
いつものウオーキング

自転車の中学生が
「コンニチワー！」
何故か、慌てた
大急ぎで「ヤー、コンニチワー！」

いつも中学生と摺れ違うけれど
いつの間にか、無言
それが、当たり前になっていた

また、言おう
「コンニチワー」って
嬉しい喜び
(May, 2013)

季節の贈り物

４月だと言うのに
積雪に会った

散り始めた桜の花びらが
雪の上に美しい模様を描いた

若葉が芽吹き始めた木々を
白い雪が覆って染めた

一瞬の雪原の向こうに

春を迎えようとするアルプスの山々が

自然がもたらす驚きと美しさ
春の蓼科で
（April, 2013）

テレビもパソコンもない夜

子供の頃
どう時間を過ごしていたのだろう
テレビもパソコンもなく
四季を感じた夜

山のテントで
なぜあんなに心が弾んだのか
テレビもパソコンもなく
満天の星の夜

停電の夜
久し振りのローソクの明り
テレビもパソコンもなく
自分をみつける夜

忘れてしまっている静けさ
忘れてしまっている自分との対話

時には大切な暗闇

(March, 2013)

我ら団塊

生まれた時から大きな塊
小学校も中学校も
進む先々で
大人数のクラス

若者になった時も塊
全共闘や封鎖劇
はては催涙ガス
世の中で暴れた

社会人になった塊
恐るべき従順な働き者
競争競争の中で
実は社会のエンジン

そして今

遂にリタイアした塊
ここにきて多様な人生観

いかに個性を出すか
長生き勝負の今

「頑張った団塊」
「変化を追った団塊」
「ついていかねば負けだった団塊」
今、団塊は考える
「これでいいかなんて考えられなかった団塊」
（Feb., 2013）

もしもあの時

もしもあの時
日本が違った道を採っていたら
今、どんな国になっていただろう

もしもあの時
今の技術があったら
父はもっと生きられただろう

もしもあの時
あと一問、間違っていたら
僕の人生はどうなっていただろう

もしもあの時
もう一言言えたら、言わなかったら
そんな時が何度もあった

あの時は一回
もしもはいっぱい
そして、
今も一回
（Jan.,2013）

あのクリスマス

思い出を追うクリスマス
目を閉じると

故郷は雪だった
でもサンタさんは必ず来ると
枕元に靴下をおいて眠った
やさしいやさしいクリスマス

学生時代に
初めて教会のミサに行った

こんな厳粛な世界があるのかと
心洗われたクリスマス

家族と共に
何とかサンタクロースになろうと
ディスカウントショップでおもちゃ
サンタを目指したクリスマス

厳寒のミシガン
大きな家で暖炉の前で
ボリューム一杯のミュージック
静かな横文字のクリスマス

また二人になって
育っていく孫の話をしながら
一本のワインを空ける
ジイジとバアチャンのクリスマス

年に一度のこともいつのまにか６５回
思えば色んなクリスマスがあった
（Dec.,2012）

柿の木があった　（故郷の四季：秋）

生家の東側の小川のそばに
大きいと思えた柿の木があった
四季折々の自然を教えてくれた

「こねり」と呼んでいたその実は
そのまま食べても良い小さな渋柿
熟すと甘くなったが
あの渋さも懐かしい

誰も価値を認めない単なる実のなる木だったが
良く登って遊んだ

冬が近づき紅葉が散っても多くの実が残って
今思うと
故郷の景色の一つ

その時その時は特に何も感じなかった景色を
突然思い出す
これが
人の歴史

あの家も柿の木も今はない
（Nov.,2012）

判らなくてもよいのかも

ＤＮＡを読み取れば
なぜ私がこの病気で悩むのか
判るんだって

ＤＮＡを読み取れば
なぜこの子が明るいのか
判るんだって

ＤＮＡを制御すれば
皆同じになるかも知れない
皆元気で、皆賢くて、皆ハンサムで、皆美人で・・

そんなの
厭だな

そんなの
無しだな

色んな人がいて
色んな幸せがあって

色んな生き方があって
色んな死に方があって

その方が
いいな

ＤＮＡの解析って
本当に
必要なんだろうか
（Oct.,2012）

夢の中の山々

徳沢園を後にして、蝶が岳に向かう急な登り
汗汗汗で長沢尾根
枯れゆく古木と、その下の高山植物の中で
無我夢中
あれは初めての登山

憧れの槍ケ岳を背に槍沢の下り
帰りのバスに向かって
雷鳥の姿に声を上げる
若さの自信
毎年のように通った山々

横尾山荘から、涸沢へ向かう花々の道
振りかえる度に上高地が下に
正面の六百山から届く冷たい風に吹かれて
思い出の秋
紅葉に酔った熟年の登山

あの時、あの山
あの汗、あの風
あの花、あの雪

静かに目を閉じて、あの時を思う
眠れない夜、たったそれだけで
穏やかな眠りがそっとやってくる

あの槍、あの大天井、あの常念、
あの涸沢、あの屏風岩

もう一度行きたいけれど
夏は、今年も終わった
（Sep., 2012）

自然とベッタリの夏（故郷の四季：夏）

目が覚めるとすぐに飛び起きて
スタンプカードを首に下げて
ラジオ体操に
子供達と共に大人も交じって
いつもランニングシャツと半ずぼん
今年こそ休まずにスタンプびっしり

昼間はとにかく水を求めて
毎日の様に近所の川へ
川遊びに
色のついた小石を選んで
投げ込んでは拾う潜り競争
山がの水は冷たく震えては陽あたりに

夕べは兄と自転車で
ミミズを餌のしかけ釣り
秘密の場所に
翌朝行くと、たまには大きなうなぎが
板に釘で頭を打ちつけて
さばく母の姿に尊敬の念

夜は風が涼しく、縁側で団扇
乾した蜜柑の皮の
蚊取りの煙
小川のほとりで沢山のホタル
蚊帳の中に離して遊んだ
雨戸は全て開け放って自然の中

そんな、夏があった

(Aug.,2012)

トスカーナの丘に立って

大理石の聖堂と洗礼堂
そして斜塔
トスカーナの田舎の街に
忽然と現れる緑の中の広場

１２世紀から１３世紀は地中海の
力の争い
ベネチアやジェノバと戦った
豊かな大海運国

ガリレオ・ガリレイを生んだ科学の伝統の国
でも、フィレンツェやローマの力に
破れていく

世界中からこの傾いた塔を観に多くの人が
やってきて笑顔を見せる
トスカーナの観光の街

明るいし、美しいし
ワインは美味しいし
でも
１００年後２００年後の奈良の大仏を心配してしまう

歴史の時を刻む怖さ

(July, 2012)

雨には紫

雨に降られる七変化
紫陽花の紫
花の手毬が重くて揺れる
女の心変わりとか

雨に降られる和のアイリス
花菖蒲の紫
緑の剣に大花弁揺れる
きりりと高貴なやさしさ

梅雨の雨には紫が似合う
何故か女性の花言葉

(June, 2012)

田植えの後の（故郷の四季：春）

まだ機械化されていなかった
親戚や、近所が協力しての一大イベント

春の田植え

記憶にあるのは苗束を投げる役の手伝い
植えこが並んで下がって行く先に苗の束を投げておく

思い出すと泥だらけの小学生がいる

田植えの終わった後の田んぼが好きだ
苗の緑が少し曲がりくねって並ぶ
その間を蒼い風が通る

わずか３，４カ月経つと黄金色の穂をつける
それを思いながら揺れる苗をみる

すぐ梅雨だ
雨を待つ田んぼ

今もあの景色はあそこにあるのだろうか

（June, 2012）

タンポポのわたげ

タンポポの綿毛盛り
遅咲きの八重桜の散った花びらの隣に
まんまる球の綿毛いっぱい

タンポポの綿毛盛り
もう周りには緑々としたワラビのシダが
風を待つ綿毛いっぱい

タンポポの綿毛盛り
次は私と一足先に落ちたつつじの花びら
半球になった綿毛いっぱい

春ゆく速さ

（April, 2012）

瀬戸内海を見ながら

また来ました
因島の安政柑畑
今年は大きな実をたわわに付けて
待っていてくれました

たった一日思いついたようにやってきて
仕事をした様な気になって楽しんで
又知らん顔、
そう言われているだろうと、後ろめたいけれど

でも、許して下さい
やっぱり楽しいんです
こうして、自然の中で、瀬戸内海を見ながら
緑と土と柑橘の香りの中で
汗を流して採り入れをし、新しい苗を植え
箱詰めをして発送する

やっただけの成果が目の前にある
こんな充実感を味わえるのは、嬉しい

今日植えた苗木に実を付けるのは何年先だろうか
その日まで
また来たい
都会の熟年の思いつきの遊びと言われても

でも、今年も皆さん優しい、親切、笑顔で迎えて下さる

また来ました
因島の安政柑畑

（March, 2012）

白い朝（故郷の四季：冬）

柱時計の時を刻む音
それ以外は何もない
静かな静かな朝
雪の積もった朝は特に

縁側の戸を開けると
白
真っ白な世界
朝日が当たって輝く
目に痛い白さ

長靴を履いて外へ
道路も真っ白
自分の足跡が全て
絵描きにでもなった様な
創造の興奮

ようやく音が聞こえる
ラッセル車が走る、黒い煙をはきながら

さあ、一日がはじまる

そんな冬の朝があった

(Feb.,2012)

炬燵で蜜柑（故郷の四季・正月）

元旦の朝、晴天でも雪の日でも
父は、東の空に向かい柏手（かしわで）を打った

そのあと、家族で新春の朝食
神棚から、供えていためでたい物を下して
おせちや雑煮と共に頂いた
昆布、勝栗、干柿、黒豆、数の子・・
自分の年齢に合わせて、新年の目標に合わせて

雑煮は、普通のみそ汁の中に丸餅
家族７人、３０個以上の大鍋

年賀状騒ぎが終わると、炬燵に入って百人一首
一年一年、おはこを増やすのが目標だった

テレビなどなかった
飲み物も食べ物も貧しかった

でも、ひもじさの思い出は全くない

あの炬燵の暖かさ、あの蜜柑のおいしさ

あの時に戻りたいとは言わないけれど
子供や孫達にもあの時を味わって欲しい

そう思う、新しい朝

（Jan., 2012）

師走の日本橋を

濃い蒼色の空
でも耳の痛い冷たい風
そんな中を

師走の日本橋を歩く
いつもの「越前おろしそば」を昼食に
もう１時になろうかというのに沢山の客
黒いスーツのサラリーマンの集団
若手は手に手帳とカレンダーの入った紙袋を持って
上司らしきはポケットに手を入れて
きっとお得意さんへの年末の挨拶回り
長く待ったが、相変わらずの辛みがピリっと

老舗の百貨店
食料品売り場は
やはり活気いっぱい
昆布絞め、伊達巻、黒豆・・
やはり、皆さん買うんだ
階段べりには初老の男達
奥様の買い物を待っている

せめてにっこりすれば良いのに

外でもう一度深呼吸をして
スターバックスでエスプレッソ
スマートタブを取りだして
予定を確かめて
ちょっとニュースをチェックして

こうして正月を迎える
この間まで、あのサラリーマンの一団の一人
いずれはあの初老の一人
でも、せめて今日は・・
おつまみの乾燥ワカメを買いこんだ

（Dec.,2011）

稲穂の中で　（故郷の四季・秋）

飽きてきた時
庭の小練り柿を取って
垂れる稲穂を分けて田んぼに潜り込んだ

ごろんと寝ころぶと
稲穂の先に蒼い空、ぽっかり浮かぶ雲を
突然赤とんぼがよぎる

小練りにかじりつくと、まだ渋みが残るが
まんだらの甘みが口の中に

「僕の人生はこれからどうなるのか・・」
何も見えない、何も判らない、でも希望

そんな、秋があった
５０年前の静かな山間の村

（Nov., 2011）

東京の空の下

久し振りの東京
三越前でヘルスクリニック
ユイトで常備薬をもらって
中央通りを歩く

建設１００年の日本橋を渡り
丸善へ
孫にプレゼントの絵本を探す
お昼は３階の早矢仕ライス
ゆっくり、のんびり
これまでの本と書店とのつきあいを思い出しながら

さて、高島屋へ
シェ松のクッキーの贈り物を買って
テレビで見た屋上へ
なるほど、皆さんベンチでのんびり
一人で腰かけて秋の青空をみる
「そうか、東京にも空があったんだ」

屋上の草木の周りを、小さな子供たちが走り回る
母子、若い娘さん達、海外から来ている人達
色んな人生がある

首都東京の秋の空の下

(Nov., 2011)

最後の香り

強い嵐の後
いつものジョギングのコース
初めての香りがして驚いた
直径２５ｃｍもあろうかという柳の木が
強風で根こそぎなぎ倒されて
でもそこから強い香り

柳からではないかも知れない
押しつぶされた周りの野草からかも知れない
でも、僕には折れた太い幹の真ん中のまだ白い部分から
強い香りが出ているように感じられた

生の証
存在感の訴え

最後の枯れ木になる前に切り刻まれて炎になるのだろうが
これも自然の中のサイクル

柳は訴えていた
この風さえ来なければもっと生きていたのに

多分生きとし生けるもの
最後に輝く何かがあるのだろう

あの芳香
覚えておきたかった
(Sep., 2011)

荒れ狂う自然

巨大な地震で２万人が命を亡くし
原発からでは放射能が恐怖心を煽り

今度は台風
毎年の様に上陸する台風だが
ゆっくり動く
２０００ｍｍになろうとする雨、続く洪水

紀伊半島で
又もや多くの人命を失う

自然の中で　人はあくまで無力だが
でも生きる方法を見つけてきた

最近の現象はなぜか　変化が大きい
数値の変動の幅が大きい

何に対する警告か
怒れる　天

(Aug/Sep., 2011)

夏がくると

夏が来ると想う
碧く透きとおった空に
糸の様に浮かぶ白い雲
その下に突き上げるような頂き
もう一度挑みたい

夏が来ると想う
這い松の緑の中に
心地よい汗を流す仲間達
挨拶をするライチョウの親子
もう一度会いたい

いつでも来られる
何度でも大丈夫
そう思っていた青春が
実はあっと言う間に過ぎ去り

夏が来ると想う
悩み苦しむ若者が
希望を託した情熱
生きることに酔いしれたあの日
もう一度帰りたい

(July, 2011)

新しい命に

小さな頭に眼も耳も鼻も口も、髪の毛もちゃんと生えている

手や足にはマメの様な小さな指が５本、その先にはちゃんと爪が生えている

はじめての子供を得て喜ぶ息子
その息子が生まれた日を思い出す親
何というスピードで月日は流れるのか
こうして人類は地球上を生きてきた

一代３０年、５０年、間もなく１００年にも
それでも、１０００年、２０００年という歴史の中では
この目で見られるのはほんの一瞬

命を考える時
運命を考える時
そして生きることを考える時

ようこそ
はじめまして
君のおじいさんです

（June, 2011）

元気な（？）病院

息子より若い看護婦さん
息子と同じ位のお医者さん

すごく生き生きとした元気な職場
でも、良く見ると患者さんは年寄りばかり
ここは老人病院じゃないんだよね、と聞きたくなる

昨日の検査オペの担当はおそらく３０台
元気があった　看護師さん達も若い若い

東京のど真ん中の病院だからだろうか
ちょっとつつくと矛盾の芽がいっぱい

でも
皆治りたい、良くなりたい、孫たちと遊びたい
だから

それはあるんだろうな・・・

せめて

その後に続く言葉は１０年早い
と、思おう
(May, 2011)

自然と人間

いつもの散歩道に
桜（はな）は今年も咲きました
去年と、一昨年と、全く同じように
でも一本一本の木を良く見ると
実際には幹は太り、枝は伸び、花のつく位置も数も変わっています
そして、時には枯れ行く木も混じっています

自然は変わらないというけれど
地球は永遠だというけれど

やっぱり少しづつ変わっています

勿論人間も年々歳々変わっています

大きな地震と、津波がありました
何万人という人達が一瞬にして命を失いました

これも自然の営みの一つでしょうか

そして今、自然ではなく人間の意志で作り出した
新しい恐怖に怯えています

人はそれを魔の技術と呼びます
決して人間は手放せない麻薬のようなものだと

有限の人類とやはり無限ではないかも知れない自然との戦いなのでしょう
偶然ではない原発との戦い

（April, 2011）

これが現実？

本当にこれが今、現実に起こっていることなのか
こんなことが、生きている間に起こるのか
今ここにじっと座って見ていて良いのか

大きな波の中に
船も家も車も木も畑も、そして間違いなく人々も呑まれていく
それをヘリコプターからのカメラが捕らえ
実況で見ている
何とむごい、今

何故あなたは、そこで死んでいき、
何故私は、こうしてただ見ているだけなのか

恐ろしい現実、恐ろしい不平等

やはり、私達は単に、生かされている
それ以上でも、以下でもない

画面の恐怖
東北関東大震災の中継

（March, 2011）

貴方の逝った日に

今日は貴方の逝った日です
もう２年も経ちました
今日あの高原にいます
雪の中で
でもあの日のプレーを思い出しています
露天風呂での
あの日の議論を振り返っています
まだ若かった情熱の日です

今日は貴方の逝った日です
瞬く間の２年です
その間に変わりました
何もかも
それでもいつも話しかけています
杯を持つと
今でも励まされています
声が聞こえる一人の日です

偶然でした、バレンタインデーは
父も逝った日でした
僕にとっては
愛の日は、偲ぶ日です

(Feb.14, 2011)

故郷は雪か

思い出します
雪の降り続く夜の　あの静けさ
窓を開けると真っ暗闇の中で落ちてくるあの綿
それが今でも耳に残る雪の降る音
火鉢に炭をくべながら深夜放送を聞いたものでした

思い出します
雪の降った朝の　あの明るさ
玄関を開けると太陽に雪の結晶が光って
時折南天の木に積もった雪が落ちる音
何も無い白いカンバスに自分の足跡を付けて喜びました

思い出します
雪が止んだ日の　あの賑やかさ
雪かき雪下ろし総出で汗をかいて
大人も子供も雪焼けの笑顔と笑い声
積もっても積もっても終わらない戦い、そして生きている喜び

故郷は今年は大雪
都市（まち）はカラカラの好天
大変だろうけれど、懐かしいな
あの雪の中の青春

（Jan., 2011）

人生のクリスマス

年の瀬
慌しいけれど
今夜は深夜のミサ
クリスマス・イブ

街はイルミネーションで輝くけれど
教会は静かでおごそか
牧師の声と、賛美歌のみが響く

今、考える時
生きるとは、死ぬとは
愛とは、信頼とは

きっと、今
人生のクリスマス

サンタクロースは？
クリスマスプレゼントは？

（Dec., 2010）

輝く紅葉に

春の若葉は新緑
若さ、青春、そして勇気

夏の萌える葉は蒼緑
今日、熱意、そして覇気

秋の葉
紅葉、黄葉、褐葉
みんな「もみじ」
静かで寂しい、でも豊か
透かして見える空は青い
明日も見える

そして落葉

落葉のじゅうたん
心地よい足音
冬を回って

来年、また新しい人生に

（Nov.,2010）

It’s the Time

It’s the time to enjoy freedom
It’s the time to sleep longer
It’s the time to run farer
It’s the time to think deeply

Likely as flying hawk
Likely as swimming salmon
Likely as running cheetah

I’m now back to nature
My real life from now on

(Nov.,2010)

リタイアしたんだ

ブルックスブラザーズのシルクのピンクのネクタイを外して
コーチの黒の牛革ベルトを緩めて
三越の濃紺の上下スーツを脱いで
グンゼの白のアンダーウエアも全て取って

生まれたままの姿で
砂浜に寝転ぶ
貝殻がチクチク背に痛い
目には雲ひとつ無い空　蒼い
耳には打ち寄せる波の音　さらさら

目を閉じて
さて
寝ていて良いのだ
もう誰も何も言わない
誰も笑わない　多分

でも眠れない
目の前にあの顔、あの顔、あの顔
笑いながら、何か言っている

起きろって
歩けって
話して笑えって

台所に帰って
炊飯器でお米を炊いて

玉ネギとジャガイモの味噌汁を作って
茄子とピーマンの味噌炒め

そうだ　何か着なくては
グレーの上下のジャージ

ゆっくり食べたら
エスプレッソでもいれて
司馬遼太郎でも読もうか
いやいやここは和辻哲郎か

結局
一体、何だったんだろうか

(Oct., 2010)

オリーブの国を訪ねて

紀元前に遡る多国籍の歴史
古代ローマ帝国
８世紀から１５世紀のイスラム帝国
グラナダに遺るアルハンブラの宮殿（やかた）
そしてレコンキスタと言う名のキリスト教による革命
イスラムのアーチ門の中にキリストの十字架
１８世紀までのスペイン帝国
コロンブスは偉大だった
彼を支えたイサベルはもっと
その後の栄光からの挫折と没落
世界の植民地の独立
フランコ独裁を経て
今やヨーロッパの問題児

スペインを知るには世界の歴史が必要
それ程の大帝国
今日　組合員のデモの旗がひるがえる

長い歴史の中でみると１００年は点
そう考えると怖い
自らの国の将来を憂える

荒野の中にオリーブ畑
逞しく育ち続ける
最も強いのは　大自然か

(Sept.,Oct., 2010)

近江の空

猛暑日の夕べ、瀬田川岸の遊歩道を歩く
若者たちの漕ぐボートが行き来する

噴き出す汗も快い
君たちがこれからの主役だよ
頑張ってね
いつの間にか声をかけている

徐々に青さが濃くなる空の下　北近江の湖を行く
竹生島の仏様に会いに
水はあくまで碧く深い
これからの人生いかに生くべきか
問うてみる
「問題は何が大事か、だよ」って声が聞こえる

琵琶湖、瀬田川、比良山、伊吹山・・
近江の自然と語る機会
これまで無かったな

(Sep.,2010)

Thanks Mt. Fuji

いつの間にか 30 歳を越した 3 人の息子達と
富士の頂を目指す

多くの団塊の人たちと　カラフルな若者達
でも　みんな一緒
自分の足で　自分の力で上がるしか　方法はない

俺は何も残せないが　とにかく一生懸命生きてきた
それだけ　見ていてくれれば良い
お前達も　自分の力で自分の足で　悔いのない人生を歩んで欲しい

そう呟きながら　歩を進めた

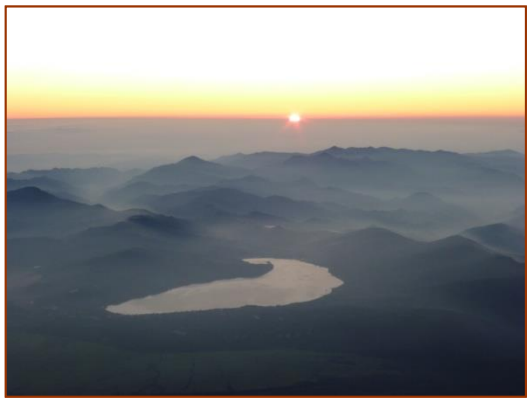
有難うよ　付き合ってくれて
有難うよ　これ以上ないリタイア記念のプレゼントだ

言葉も出ないほど美しい　神々しいご来光

良かったな チャレンジして
良かったな天気に恵まれて

有難うよ　成人したチビ達に

(Aug., 2010)



故郷を訪ねて

高台に半鐘の火の見櫓があった
近くの部落で火事があると
消防団に入っている人がハシゴを上って鐘を打った

驚いて外に飛び出すと
真っ暗な空に、山の裾が赤く光って
消防車のサイレンが響いた

この火の見櫓の下が
ボーッとする格好の休憩場所だった
春は緑いっぱい、山菜の宝庫
夏は夕涼み、蒸気機関車を眺めた
秋は稲刈りあとの、トンボの舞
冬は雪に埋もれた村の屋根、どの家からも煙がたった

その思い出の半鐘の丘に
４０年振りに立った
何をしてきたのか
何のためにガムシャラに走り続けたのか

空は同じ、山の形は同じ
でも木は育ち、村の景色は全く変わった
もう、その櫓も無い

やはり、年月は経ったのだな・・と
父も母も
もういない

故郷の景色は
年月を一瞬にする

(July, 2010)

大和の四季（１）

土塀の上から　紅椿一輪
それだけで　心は青春
又　会える　三月堂の　日光・月光
あの明日を求めた　日々

猿沢の池に　水芙蓉一輪
それだけで　あの憧れ
又　会える　興福寺の　阿修羅
あの　優しさと　怖さ

飛火野に　萩の花茂る
それだけで　静かな想い出
又　会える　新薬師寺の　伐折羅
何もかも　見透かされた　あの日

あの若き日の　寧楽（なら）
花と仏と

あの頃の私に会いに歩く

（June, 2010）

大和の四季（２）

飛鳥は春
三輪三山に風たなびいて
田にれんげの花と香り
歴史に耐えた大仏様　にっこり

秋篠は初夏
雑木林を涼風が通り
青空に泰山木の花
やさしさあふれる伎芸天　うっとり

斑鳩は秋
黄金揺れる田の風
柿の実想う鐘の音
謎多い救世観音　ひっそり

西ノ京は冬
二塔を覆うボタン雪
天平の甍　エンタシス
輝き続ける仏達　ゆっくり

(June, 2010)

今日を有難う

悲しい時、淋しい時
つまずいた時、涙に濡れた時
生きる元気が無くなった時は
いつも、それでも思ってた
明日がある　と
きっとまた歩ける、楽しい日が来る
何でも頑張ればできる
そう信じて

でも今日思う
今日も良かった、楽しかった
悲しさだって歌になる、淋しさだって歌になる
生きてることって楽しいし、嬉しい

今日を有難う
空を、太陽を、雲を、雨を、嵐だって
山を、川を、水を、緑を、花を
そして命を　有難う

(May, 2010)

還ってきた兵士

闘うのが義務だった
引き鉄を引くのも義務だった
自分がやらねば、自分がやられる
そんな世界だった

Soldier Returned

間違っているかも知れない
そんな気持ちは勿論あった
でも
何が正しいか、どちらが正しいか
問い詰めると　いつも
今が正しい

Soldier Returned

なぜなら
誰にも良いこと
平等でありながら　不満のない世界なんて
あり得ないから

Soldier Returned, Soldier Returned

彼は還ってきた
１８で離れた故郷へ
血で血を洗う　激しい闘いを終えて
ただ安らぎを求めて
還ってきた
でも感じる　この疼き
Soldier Returned,　Soldier Returned

彼は還ってきた
ずっと待ち続けた　母の元へ
とうもろこしと、花と、牛と・・
大地と共に　生きるために
還ってきた
でも感じる　この焦り
Soldier Returned, Soldier Returned

だって、あいつは今も
だって、あいつは戦場に

(Apr., 2010)